

平成 17 年 8 月 23 日

各 位

会社名 株式会社 静岡中央銀行
代表者名 取締役社長 奥田 一
問合せ先 取締役企画部長 林 道弘
(TEL 055-962-6113)

平成 18 年 3 月期第 1 四半期情報の開示について

当行の平成 18 年 3 月期 第 1 四半期（平成 17 年 4 月 1 日から平成 17 年 6 月 30 日）における四半期情報開示について、お知らせいたします。

（注）以下に記載する数値は、監査を受けておりません。

1. 金融再生法ベースのカテゴリーによる開示

[連結・単体]

	(単位：百万円) 平成 17 年 6 月末	(参考) (単位：百万円) 平成 17 年 3 月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	3,066	2,990
危険債権	5,107	5,173
要管理債権	3,345	3,474
合計	11,518	11,637

（注）上記の四半期末(平成 17 年 6 月末)の計数は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則」第 4 条に規定する各債権のカテゴリーにより分類しておりますが、集計方法については以下の点につき年度末又は中間期末に開示する計数とは異なるため計数は連続しておりません。

- 平成 17 年 6 月末の「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」および「危険債権」の金額は、同年 3 月末時点における債務者区分（※）をベースとし、同 3 月末から 6 月末までの倒産、不渡り、延滞等の客観的事実のほか、当行の定める自己査定基準に基づき債務者区分の見直しを行い、6 月末残高にて開示しております。
- 平成 17 年 6 月末の「要管理債権」の金額は、同様に同年 3 月末時点における「要管理債権」をベースとし、同 3 月末から 6 月末までに新たに「要管理債権」となった貸出債権、および回収状況ならびに債務者区分の変更を勘案し、6 月末残高にて開示しております。

※ 債務者区分との関係

- 破産更生債権及びこれらに準ずる債権（実質破綻先、破綻先の債権）
- 危険債権（破綻懸念先の債権）
- 要管理債権（要注意先のうち、元本又は利息の支払が 3 ヶ月以上延滞しているか、又は貸出条件を緩和している債権）

2. 自己資本比率（国内基準）

[連結・単体]

(参考)

	平成17年9月末(予想値)	平成17年3月末(実績)
連結自己資本比率	10.9%程度	10.88%
連結Tier I 比率	9.2%程度	9.26%
単体自己資本比率	10.9%程度	10.91%
単体Tier I 比率	9.3%程度	9.28%

(注) 上記予想値は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い変動することがあります。

3. 時価のある有価証券の評価差額 [単体]

○ 評価差額

(単位：百万円)

(参考) (単位：百万円)

	平成17年6月末				平成17年3月末			
	時価	評価差額			時価	評価差額		
		うち益	うち損			うち益	うち損	
その他有価証券	53,347	5,367	5,469	102	51,630	5,359	5,442	83
株式	6,083	4,200	4,209	9	6,245	4,361	4,373	11
債券	30,452	791	797	6	30,428	654	664	10
その他	16,810	375	462	87	14,957	343	405	61

(注) 1. 平成17年6月末の「評価差額」及び「含み損益」は、同年6月末時点の帳簿価額（償却原価法適用前、減損処理前）と時価との差額を計上しております。

また、平成17年3月末の「評価差額」及び「含み損益」は、同年3月末時点の帳簿価額（償却原価法適用後、減損処理後）と時価との差額を計上しております。

2. 満期保有目的の債券、子会社・関連会社株式で時価のあるものはありません。

4. デリバティブ取引 [単体]

該当ございません。

5. 預金・貸出金の残高 [単体]

(単位：百万円)

(参考) (単位：百万円)

	平成17年6月末	平成17年3月末
預金（末残）	416,790	420,991
うち個人預金	309,036	306,661
貸出金（末残）	351,997	353,781
うち中小企業等向け貸出金	318,794	318,692
うち消費者ローン	63,889	65,594

以上